佐世保工業高等専門学校

令和６年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム （リテラシーレベル）自己点検評価

会議名称：自己点検・評価委員会

点検項目	内部評価	評価理由
プログラムの周知・広報	A	教育プログラムの情報をホームページで公開しており、本プログラムの目的や位置づけについて、学内や学外へ十分説明を行っている。
プログラムの履修状況	A	2024年度の本プログラムの履修率は100%である。
（１）授業に含まれる内容・要素： 数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化(第4 次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	A	情報セキュリティ、数理・データサイエンス・AIが自らの生活に密接に結びついていることを理解するための、演習や発表を行っている。
（２）授業に含まれる内容・要素： 数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	A	データが日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ることがわかるように、データを用いたExcelの演習を実施している。
（３）授業に含まれる内容・要素： 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	A	データを用いたExcelを用いた演習を行う際には、データのそのもの解析だけでなく、様々な知見と組み合わせることで価値を創出する演習を行っている。
（４）授業に含まれる内容・要素： 数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要であること。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要であること。	A	高度情報化社会に関する諸問題についてのグループワークや、高専サイバーセキュリティ人材育成事業で開発した実例に基づいたデータ倫理に関する教材を活用した授業を展開している。
（５）授業に含まれる内容・要素： 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	A	社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関する演習が実施されている。
プログラム学修成果（履修者に対する修得率）	B	旧カリキュラムと新カリキュラムの接続に関連した留年生の影響により、プログラム修得率は100%に届かなかった。プログラムは必修科目のみで構成しており、今後は100％の修得率が見込まれる。

A：十分満足している

B：満足している

C：改善を要する